



## 縣民の視聽を集めた 十年度の米作

果して如何なる統計が出たか

調査上の参考を二三

みのりの秋、收穫の秋として祝福せらるべき此の秋も旬日の冷雨と數日の豪雨とに依り縣南及び縣北一帯に未曾有の冷害及び水害を招き、米作は非常な減收を見越さるるに至り、農家のみならず一般社會に異常なる不安を抱かしむるに到つたが、果して録入れ後の狀況が此の豫想通りの收穫であつたらうか。

第二回米豫想收穫高は百六十二萬四千四百二十石で、前年に比し三十萬六百三十三石、前五ヶ年平均に比し四十三萬六千六百六十石と云ふ大なる減收を豫想せられ實收調査こそ何人にも注目せらるるは論を俟たない所であります。

本縣に於きましては、昭和三年三月農産物調査方法なるものを縣令を以て規定し、昭和四年より耕地一筆毎に現地に臨

旨の普及と指導とに依つて農家各自の申告、即ち農家より收穫の收穫高が信憑し得る様記載さるる迄に徹底させる必要があるものであります。

本年の米生産統計調査の實績を省みて將來注意すべき事項改善すべき事項等を左に記載して町村主任者並調査員の參考に資すること致します

### 一、坪刈と一反歩收穫高

坪刈は一反歩收穫高を決定する前に上中下の作柄毎に標準地を選んで坪刈をするのであります但し此の結果を三百倍して一反歩收穫高と爲すのでは無い。勿論坪刈地を選定する場合には全部の收穫高を得らるる即ち中庸の作柄を選ぶのであります但し果してそれに當つて居るかどうかは一般が相當收穫を爲した上での結果と比較せねば判らないし又坪刈と全刈とを比較すると坪刈の結果の方が收穫が多くなると云ふことは各所に見らるる實例でありますから一段歩收穫高の決定には坪刈に捉はれず且録入前の世間の噂もかまはず厳正公平な氣持で判斷する必要があります。

或る村では調査員が地主と小作人とである爲相當に此の決定に日子を費したとか或る村では地主と小作人に立會はして坪刈地を選定し其の結果は小作料何割減迄此の結果に基いて決定したとか、町村毎に其の状態は異にすれども孰れも慎重

んで其の作柄を上中下に分類し且其の各作柄毎の實收高を得べき作柄別の中庸の一段歩當收穫高を決定して之に作柄毎の反別を乗じて算出し其の年の收穫高を決定することになつたのであります但し、昭和八年より此の米の生産統計調査方法が全國的に統一せられ對地調査の一方新たに對人調査として農家より聽取し双方審査の上收穫高を決定することに改正せられたのであります。

併し本縣の如く農家其のものに統計に關する理解少く且貯藏の習慣もあつて自己の收穫を玄米にて何石何斗何升と申告の出來ぬ者の多い場合にあつては對地調査に重心を置くのは勿論であります、農家箇々の私經濟の如何を知り其れに依つて農村対策も亦確立せらるるのでありますから、之が趣

に調査せられたことは想像せられるのであります。

又坪刈地に旗を立てたことも相當に効果があるものと思はるのであります、耕地に旗が立てば道すがら何の爲かと疑問を持つであらうし此れが一反歩收穫高決定上の坪刈標準地と判れば興味を以て注視し此れでは良すぎるとか悪すぎるとか色々の議論も生じて益々適正のものが選定せらるるに至るのであります。

唯々遺憾なのは糶摺歩合を何等の根據なく決定せらるる町村のあることです、坪刈と云ふ即ち試し刈を爲す以上糶摺歩合迄試す必要があり之を試してから其の凡ての成績を記載するのが坪刈成績表であるのにどうしたら簡單に糶摺歩合を得られるかと云ふ様な質問を發し恰も之を嫌ふかの如き町村があるが此れは勿論、之に對する設備の無きに依るのであります、せうが今後は之が設備を爲して必ず糶摺歩合を實驗する様にしたいものです。

### 二、基準票及調査票

基準票の作成は各調査員の受持調査區内に於ける米作人毎に一票を作成するものであります、但し他町村から入作して居る場合には其の他町村から入作して居る者全部を合計して一票に取纏むるものであります、然して右の内自町村内他調査區より自調査區へ來て米作する者に付ては其の基準票を作成の

上住所地の調査員に送付し又自調査区の農家が他調査区で米作を爲す場合には他調査区の調査員が其の区内に付前同様に於て基準票を製作したるものを送付して来るから、其の各調査区より集る同一農家の基準票を合計して各農家毎の調査票を作成するのであります。

然るに此の基準票を入作の場合一票に纏めず農家毎に作製のもの、基準票を作成して他調査区へ送付すべきを補助表に依つて送付したるもの等が相當にあつた、又調査区に跨り耕作した場合數枚の基準票を纏めて一枚の調査票を作成すべきに各基準票毎に調査票を作成して農家一戸毎に纏めざるものもあつた、此等のものは孰れも正規の手續では無いのでありますから次年に於ては斯の如き事なき様町村に於ても調査員を指導する必要があるとせう。

更に注意して置きたいのは調査票の記入を農家に依頼し又は聴取の結果を記載する收穫高(玄米)の欄である、未だに此の記載を怠る者や果して農家より聴取したるや疑はしいものが多數ありますが前にも記載した通り相當重要な使命を持つて居るものでありますから假令直ちに正確なるものを得られぬにせよ諄々として農家を説き導きます毎年の之を繰返して行くときは統計思想も自然と理解せらるるに到り收穫高審査欄の必要なみに到るのみならず對地調査を爲さざるも申告のみにて正確に調査し得るに至るであらう、是非ともそこ

迄進歩させたいものである。

以上申し述べた通り手續上には多少の遺憾の点を發見する町村もあるも大部分の町村は孰れも完全なる調査を行ひ且手續上多少の欠点ある町村も數の上に於ては是亦確信ある調査を提出せるもので逐年其の内容の向上を認めらるるは寔に御同慶に堪えない所であります。

本誌の發行せらるる頃には米實收高も發表せらるる事と思はれますが此の一つの數字こそ縣下約三千八百人の調査員が數回に亘り耕地を巡回して一筆毎に其の作柄を調査し且慎重に一段歩收穫高を決定して之を農家毎に算出し農家より聴取に係る收穫高と比較して審査收穫高を決定したものを集計して作成した誠意と努力との結晶であるのであります。

昭和九年に於ては其の調査方法も一般に理解せられず爲に兎角の議論もありましたが其れが却つて此の調査に對する認識を深め一般に理解せしむるに至つたことは雨降つて地固まるのたとへ何が幸になるか判らぬものであります。

本年の調査は何等の議論もなく此の調査を利用して貰へることとせう、絶大なる調査員の努力に對して満腔の謝意を表する次第であります。



### 春おぼろ

### 菜の花の咲く二千町

#### 本縣の工藝農産物調べ

春の野を黄色く彩る菜の花、蝶や蜂の友として無くてはならぬ菜の花、此の菜の花も實はナタネとなり我國貿易品として將來益々重要な地位を占むるもので、最近産業政策上特別の關心を持たるるに到つた、本縣に於ても近年著しい發達を見せ、殊に二毛作の出來る所から昭和十年の作付段別は千八百十二町六反に及び其の收穫高は二萬二千五百一十石に上り此れが價額は三十三萬九千六百九十一圓に達して居る、それでも前年に比較するときは前年來米價の著しい騰貴に伴ひ麥作を爲すものも増加したるに依り作付反別に於て四

百五十町二反、收穫高に於て五千七十

三石、價額に於て四萬二千一百一圓を減

少してしまつた。

どの郡でたくさんの菜の花を見られようか？それは春の晴れた日に飛行機にでも乗つて見渡せば判ることであらうが縣の統計に依れば縣の北端久慈郡から縣の南端猿島、北相馬郡迄知ることが出来る

× 縣内で一番多い鹿島郡は四百三十九町で四千九百三十九石の生産、次の行方郡が二百五十七町三反で二千七百一十七石、次の那珂郡は二百五十三町三千二

十石で收穫高では第二位の行方郡より多くなつて居る、第四位は東茨城郡で二百五十一町七反この生産二千六百八十四石あり他の郡市は孰れも百町以内である。

× 花はナタネ程綺麗では無いがナタネと同様、否それ以上の用途を持つ胡麻の作付反別は七百七十四町六段、其の收穫高は四千九百四十石、此の産額九萬七千六百五十五圓でナタネ同様の影響に依り前年に比し百二十五町八段、千三百八十七石八千二百三十七圓を減じた

× 此れを郡別に見ると鹿島郡最も多く二百七町六反で千三百三十二石、次が東茨城郡で百六十二町二反、八百五十九石、次が行方郡で百一町二段、五百十七石他は七十町以下で其の收穫高も四百七十石を超えるものは無い。